



南牧小・学校評価だより

南牧村立南牧村小学校
No. 1 令和4年7月実施

令和4年度第1回の学校評価アンケートの実施に際しまして、ご協力ありがとうございました。アンケートの集計ができましたのでお知らせいたします。
学校では、成果と課題を明確にし、課題に対しては改善策を考え取り組んでまいります。今後もご支援、ご協力をお願いいたします。

令和4年度学校評価一覧表（評価者の欄はA+Bの割合を%で示しています）

教育目標の達成状況

| 評価の観点 | 評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】 | 評価者 | | | 評価 |
|-------|--------------------------------|------|------|------|----|
| | | 職員 | 保護者 | 児童 | |
| やさしく | 返事や挨拶がしっかりできる | 91% | 100% | 100% | A |
| | 人の気持ちを感じて行動できる | 91% | 87% | 93% | A |
| | 感謝の心で人や自然に接することができる | 100% | 93% | 100% | A |

| 評価の観点 | 評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】 | 評価者 | | | 評価 |
|-------|--------------------------------|------|-----|------|----|
| | | 職員 | 保護者 | 児童 | |
| かしく | 夢の実現に向けて、意欲的に学習する | 100% | 87% | 87% | A |
| | 課題解決に向けて、自ら考え、判断し、表現する | 91% | 87% | 87% | B |
| | 人や自然に学び、創意工夫する | 100% | 93% | 100% | A |

| 評価の観点 | 評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】 | 評価者 | | | 評価 |
|-------|---------------------------------|------|-----|-----|----|
| | | 職員 | 保護者 | 児童 | |
| たくましく | 運動に親しみ、健(すこ)やかな身体と康(やす)らかな心を鍛える | 100% | 80% | 80% | B |
| | 失敗や困難に負けず、強い心で何事にも取り組む | 100% | 80% | 87% | B |
| | 危険を予測し、主体的に判断し、命を守る行動がとれる | 100% | 93% | 93% | A |

本年度の努力点についての評価 No.1

| 評価の観点 | 評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】 | 評価者 | | 方 策 | 評価 | 成果と課題 | 2学期の方策 |
|-----------------|--|------|-----|--|----|---|--|
| | | 職員 | 保護者 | | | | |
| 豊かな人間性(やさしく)の育成 | 人権教育及び道徳教育を核として心の教育の充実に努める。 | 91% | 87% | ・人権週間や児童会を中心とした活動の充実 ・日常における道徳指導の充実 | B | ・日常生活においても、児童が相手を意識しながら接したりする姿が見られるようになった。 ・児童が主体性を発揮しながら活動を進められるよう支援していく必要がある。 | ・常に自分事として考えられるようにすることで、日常生活と道徳を結び付けて取り組めるようにする。 ・児童が主体的に取り組む人権週間や児童会を中心とした活動を計画・実施する。 |
| | ふるさと南牧村を愛する心を育てるとともに、自己理解・自己実現を図るキャリア教育の充実に努める。 | 100% | 93% | ・南牧のよさを実感できる教育活動の計画的推進 ・自己の成長を実感できる「キャリアパスポート」の活用 | A | ・総合的な学習の時間や生活科において、地域とのつながりを意識した教育活動が充実してきた。 ・キャリアパスポートや振り返りカードを活用して、児童の取り組みを把握し評価することができた。 | ・南牧のよさを実感できる教育活動の計画的推進を今後も行っていく。 ・自己の成長を実感できる「キャリアパスポート」の活用を継続して行っていく。 |
| | 小さな変化を見逃さず、不適応や問題行動については組織的な対応に努める。 | 100% | 80% | ・日常の観察やアンケート等による問題の早期発見 ・担任間、管理職との連絡を密にした早期対応 | B | ・教師間で情報共有し、いじめの早期発見早期解決を図っていこうと取り組めた。 ・児童一人ひとりが自己有用感をもてるよう、児童の活動を認めることを充実させていく。 | ・日常の観察やアンケート等による問題の早期発見を心がける。 ・担任間、管理職との連絡を密にした早期対応を心がける。 ・児童の取り組みに対して共感的な姿勢で認めていくようにする。 |
| | よりよい人間関係づくりを基盤とした学級経営に努める。 | 100% | | ・共感的な児童理解と社会性を育てる活動の充実 ・教育活動全体を通したコミュニケーション能力の育成 | A | ・一人ひとりに合った支援を行っていくことで、適切な関係を築いていこうとする意識が高められた。 ・主体的により良い人間関係を作っていこうとする姿勢を伸ばしていけるようにする。 | ・共感的な児童理解と社会性を育てる活動の充実に努める。 ・教育活動全体を通したコミュニケーション能力の育成を図る。 |
| 確かな学力(たくましく)の向上 | 「南牧小授業スタンダード」を基に指導方法の工夫・改善を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。 | 91% | 87% | ・全国学力学習状況調査やその他の学力検査等の結果活用 ・「南牧小スタンダード」の継続・改善 | B | ・全国学力状況調査の結果分析をし、課題の把握ができた。 ・「南牧小スタンダード」を提示し、共通理解を図ることができた。 | ・昨年度のCRTの過去問題やドリル学習を活用し、基礎基本問題に取り組ませる。 ・校内研修で「南牧小スタンダード」を継続的に振り返り、改善に努める。 |
| | ICTの活用により、個別最適な学びと協働的な学びを充実させた授業改善に取り組む。 | 100% | 80% | ・日々の授業におけるICTの活用 ・校内研修の充実 | B | ・ICTの活用は進んでいるが、効果的な活用については研修が必要と感じる職員もいる。 ・オンデマンド型研修を始めることができた。 | ・効果的だと思われる取り組みを共有し、授業で実践する。 ・定期的な研修の他、オンデマンド型研修も継続して進めていく。 |
| | 「家庭学習の手引き」を活用して家庭と連携を図り、家庭学習の習慣化に努める。 | 91% | 73% | ・「みんなのやくそく」の全校共通体制での活用 ・お便りや懇談会等での家庭学習の内容や取組の周知 | B | ・「みんなのやくそく」の掲示物を年度初めに提示をし、指導に努めた。 ・家庭学習の内容や取り組みの家庭への周知ができた。 | ・はなまる学習コーナーを活用し、家庭学習の意識付けを図る。 |
| | 児童自ら考え学び合い、児童が主体の授業実践に努める。 | 82% | | ・児童の実態把握と必要感、必然性のある課題の設定 ・チャット機能の活用 | B | ・一人1授業の指導案検討を通し、課題の設定について、共通理解を図ることができた。 ・過去のチャット投稿を参考に、教材研究をすることができたが、自身の取り組みを報告する職員は少なかった。 | ・一人1授業の指導案検討及び授業研究会を充実させ、授業力向上に努める。 ・1週間に1回、自身の取り組みを投稿し、授業アイデアを共有する。 |

| | | | | | | | |
|----------------------|--|------|------|--|---|---|---|
| 健康やかな体づくり 【たくましく】 | 食育、健康教育や安全教育を充実させ、家庭との連携により、基本的な生活習慣の定着に努める。 | 91% | 100% | ・新型コロナウイルス等感染症への理解と予防対策の徹底 ・健康に関する授業や学校保健委員会等を通じた啓発活動の推進 | A | ・健康観察や検温など保護者の協力もあり、元気に登校する児童が多い。 ・保健指導(歯みがき)や熱中症予防についての学校保健委員会を実施できた。 ・平和で安全に守られて生活しているので、困ったことがあったときの回避行動を体験する機会が少ない。 | ・引き続き、コロナ感染症予防に気を配りながら、学校行事などを実施していく。(給食後の歯みがきなど、感染予防に気を配りながら実施する。) ・避難訓練などの機会に、危険に対応する場面を想定して考えられるようにする。 ・食育集会(学校保健委員会)の準備をする。 |
| | 体力向上プランの組織的な取組に努める。 | 91% | | ・運動習慣の定着と運動の質的・量的確保 ・新体力テスト結果等の分析による運動領域の重点化 | A | ・休み時間に外遊びを好んでする児童がいる一方、外遊びする時間が少ない児童がいる。 ・積極的に運動をする児童がいる一方、苦手意識から運動に消極的な児童もいる。 | ・外遊びができるように、休み時間を確保する。 ・運動会や持久走に向けて、目標をもって取り組んでいけるようにする。 |
| 組織的で活力ある学校づくり | 互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努める。 | 100% | | ・校内におけるOJTの充実 ・教職員一人一人のよさを発揮できる場の設定 | A | ・校内研修の研究授業や学校行事等を通し、授業の進め方の共有化や職員同士の交流、児童への関わり方を学ぶことができた。 | ・職員の専門性や得意分野を生かし、OJTの充実を図る。 ・授業改善と指導力向上に向け、担任間での授業参観を積極的に行っていく。 |
| | 人事評価制度を適切に活用し、学校経営への参画意識を高めるよう努める。 | 100% | | ・面談機会の活用と進捗状況の報告、確認 ・経営方針に沿った業績評価の目標設定 | A | ・当初面談を通して、学校経営方針や今年度の努力点と関わる業績評価の目標設定を行うことができた。 | ・設定した目標の達成に向けた実践について定期的に確認する。 ・授業やその他の教育活動の参観による、管理職と目標達成状況について確認し合う。 |
| | 校内研修を核として職員研修の充実を図り、教職員の指導力向上に努める。 | 100% | | ・校内研修の研究授業を通じた指導力と授業分析力の向上 ・教職員の資質向上を目指した研修の実施 | A | ・研究主題に沿って研修を進め、目的意識をもって研修に取り組むことができた。 ・授業研究会では、様々な意見が出てお互いの授業力向上につながった。 | ・授業研究会で出た課題を分析し、それに対する改善策を考え、次に生かせるよう共有化を図る。 ・職員会議や校内研修等の場を活用して、本校の児童と職員の実態に合った研修を進める。 |
| | 校務の精選と効率化による業務改善の推進と勤務時間の適正な管理に努める。 | 91% | | ・業務の見直しと情報の共有化 ・在校時間等記録表による勤務時間の管理の徹底 | A | ・職員会議等で議論し業務の見直しを図り、学校経営会議や学級経営会議等の場を通して情報を共有することができた。 ・年度初めの時期については、適正な勤務時間の管理が徹底できなかった。 | ・昨年度の反省を生かして仕事の内容を吟味し、より効率的な働き方を推進していく。 ・勤務時間内での校務に充てる時間を確保するため、校務のローテーション化を図る。 |
| | 服務規律の確保を徹底する。 | 100% | | ・「規律確保行動計画」の沿った研修の実施 ・「服規律チェックシート」による毎月の確認 | A | ・「服務規律確保チェックリスト」で自己点検を行うことにより、服務規律の確保に努めた。 | ・非違行為の根絶に向けて、計画的に服務規律に関わる研修を行っていく。 |
| 安全で安心な学校づくり | 学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努める。 | 100% | | ・様々な時間と事態を想定した避難訓練の実施 ・校舎内外の毎月の安全点検実施 | A | 危険な箇所がなく、事故を未然に防ぐことができるよう毎月必ず安全点検を実施した。また、避難訓練を実態に合わせて実施し、実際を想定して訓練を行うことができた。 | 安全点検は、引き続き毎月行うとともに、先生方と結果を共有する。避難訓練では、外部専門講師と連携を図り、さらに訓練が効果的なものになるようにしていく。 |
| | 適切な予算執行により、教育環境の整備・充実に努める。 | 100% | | ・執行状況の共有化 | A | 学校予算の教職員への提示と執行状況を行った。安全主任と連携を図り安全点検結果をを参考にした環境整備ができた。 | 予算執行状況を確認しながら、教育活動において有効的な執行が行えるように教職員との連携を引き続き行う。 |
| 地域とともにある信頼される学校づくり | 学校評価・学校運営協議会等を活用し、学校課題を把握し改善を図る。 | 91% | | ・学校評価や学校運営協議会からの情報収集と課題の明確化 ・改善策の計画的な実行と定期的な振り返り | A | ・学校運営協議会から多くのご意見や情報をいただき、参考にすることができた。 ・1学期の学校評価を通して、学校課題を明確にすることができた。 | ・第1回学校評価の成果と課題を生かし、学校課題の改善を図っていく。 ・定期的に振り返りながら2学期の方策の着実な実施に努める。 |
| | 学校Webページや各種通信等により、積極的な情報発信に努める。 | 100% | 87% | ・Webページや各種通信等による ・学校行事や日常の様子等の情報提供 | A | ・Webページと各種通信を効果的に使い分け、家庭・地域へ情報発信することができた。 | ・学年や教科、行事における更新頻度のバランス化を図っていく。 |
| | 地域人材や施設・自然の活用を通して、地域のよさを生かした教育を推進する。 | 91% | 87% | ・ふるさと朝礼、総合等での年間計画に基づいた資源の活用 ・南牧村を愛する気持ちにつながる活動を取り入れた活動の工夫 | B | ・ふるさと朝礼では、南牧の魅力について様々な角度から講話をいただいたり、社会や総合の学習では、南牧のよさを感じられる活動を取り入れたりしたこと、地域の素晴らしさを再認識できた。 | ・児童の教育活動の充実や学校課題の解消に向けて、学校運営協議会との連携を推進し、地域に関わる様々な資源の発掘を進める。 |
| | 保育園や中学校との連携を推進し、幼児教育及び義務教育9年間の系統性ある教育活動に努める。 | 91% | | ・小中連携の会議による共通理解と共通教育活動の実施 ・保小中連携による行事や授業参観の実施 | A | ・小学校から中学校へのスムーズな接続に向けて、6年の社会、5・6年体育・外国語を中学校の教員が担当し、連携を図ることができた。 ・保育園との連携がなかなかできなかった。 | ・小中間での授業参観や情報共有の場を設定し、義務教育学校設置に向けての意見交換を進める。 ・各種行事を通して、保育園との情報交換の場を設定し共有化を図る。 |